

# 鼓童



熱き思ひ満ちる鼓童塾

- 鼓童ワン・アース・ツアー～神秘 轟きと、光と暗闇と
- 幾千の心の花を咲かせて 小島千絵子
- ハートビート・プロジェクト 芸能、人々を突き動かす力 『奈奈子祭』

(写真:洲崎純子)

「神秘」公演、間もなく佐渡で初演の幕開けです!

# 鼓童通信

2013年9月～10月



九／二六 東京・渋谷で開催された「一〇〇まで叩くぞドン！ドン！ドン！」梶原徹也生誕五〇年祭に小田洋介がゲスト出演させていただきました。  
(写真・田中文太郎)

## AMATERASU アマテラス 京都公演

鼓童に入団し初ツアーとなる「アマテラス」公演。未熟ながらもこの大舞台で、オープニングの演目「暁」の打ち手という大役をいただきました。神々が待つ幕を開けるため、一人きりでの演奏は祈りでもあり、自身との対話でもあります。静寂の中ゆっくりと始まり、不安から徐々に解放され、最後にビックバンが起き世界がつくられる。アマテラスの話を要約しているかのようなこの曲で、一気にお客さんを神話の幻想的な世界に連れて行きたいと思ひ、演奏しています。

僕たちの演奏は毎回全く同じ様にはいきません。やることは同じでも毎回出来る上がるものが違うので、日々自分の身体と向き合うことを大切に、緊張感をもって挑んでいます。  
(報告・三浦康暉)

## 十／二二

初演から七年ぶりに、京都南座に戻ってまいりました。当時を経験した者が少ない中で記録や映像を辿って再現し、そして特別出演として愛音羽麗さんが加わった新しい演目と、新しい波布のシーンなど、進化した内容でお届けして参りました。三ヶ月の長期公演ということでも、キャストも公演月によって替わり勤めてまいりましたが、いよいよ最終公演地で公演中です。お陰様で三都市全六七公演が満席以上のお客様にこ来場頂き、とても幸せな時間を舞台の上で過ごさせて頂きました。先日は拍手が鳴り止ま

ず、二三分間のカーテンコールとなりました。残り少ない公演、大事に勤めてまいります。  
(報告・見留知弘)

## SOLO ACTIVITY ソロ・小編成活動

九／二七 新潟・小島千絵子「ゆき逢ひラ イブ@坂口記念館」

小島千絵子の世界観が存分に現れた「ゆき逢ひ」公演、今回は頸城地方にある旧屋敷で、一部は庭園、二部は座敷を舞台に趣のあるライブコンサートとなりました。共演者は山口幹文と西野貴人氏。地元の協力者の力添えも加わり、手づくり感あふれる公演になったと思います。会場には老若男女、鼓童を知らない方や太鼓を観るのは初めてという方が多く、客席を埋め尽くした百二〇名のお客様は、コンサートを一時でも見逃さないというような真剣な眼差しで鑑賞されていました。  
(報告・山中津久美)

## 鼓童特別編成公演

十／十一 東京・国際文化会館

今回の公演は、外国の方に向けて日本の文化を紹介すると言う事もあり、英語で自己紹介や演目紹介などをさせて頂きました。不慣れながら一生懸命に話す私たちの英語を温かくきいてくださった皆様。時折笑いが起きる場面もありながら、終始和やかな雰囲気で行きました。特別編成の今回は、琉球舞踊の金城光枝さんの出演や、国際文化会館の館

長さんであり鼓童の古くからの友人でもある尺八奏者のクリストファー遥盟ブレイズデルさんにサブライヴゲストとして出演して頂くなど、盛りだくさんな二時間となりました。アンコールでは皆さんスタンディングで迎えてくださり、国境を越え、音楽と言う言葉で一つになれた思いがしました。  
(報告・小松崎正吾)

十／十八 佐渡・第三世界の鼓童とともに「芸能の宝島・佐渡」おけさ・鬼太鼓・鼓童の祭典・両津文化会館

秋も深まった佐渡は両津での公演でした。島内の公演は応援してくださる地元の方々が毎回たくさん観に来てくれるのですが、今回は特に多くの方々会場に駆けつけてくださいました。前半は佐渡の芸能である鬼太鼓と佐渡おけさ。豊かな芸能文化を感じさせると共に、育まれてきた時間の壮大さを感じるものでした。

後半の鼓童の舞台はベテランの繊細さと熟練した熱い想いに、若手の勢いが加わるノンストップの四五分。宮崎正美が舞台メンバーを締めくくる日ということもあり、特に熱いステージとなりました。「正美ありがとー！」という客席からの声がかたがた響き渡り、惜しみ無い拍手が終演後も鳴り続けました。  
(報告・草洋介)

十／十九、二〇 東京・藤本容子コンサート「花のうてな」の佐渡情話

一月に佐渡の真野・大小で始まったこの企画。私の生まれ在り所での八、九回目



作：宮崎正美

の二日公演が、ことしの仕納めとなりま  
した。「なるだけ鼓童に負担をかけずに  
出来ることに挑戦したい」という思いで  
自主活動をはじめましたが、宣伝告知、  
会場提供、受付やお客様対応、予約管理  
等々、実現のために各地で協力してくだ  
さったお一人お一人がなければ不可能な  
ことでした。そして、一緒に盛り上がっ  
てくださったお客さま。受け止め応援し  
てくれる鼓童の仲間。みなさんに感謝で  
す。来年は、新企画も加えて、頑張りま  
す。  
(報告：藤本谷子)

藤本吉利・山口幹文ゲスト出演  
十／二〇 新潟・第六一回新潟市芸能ま  
つりメインステージ「萬代に響け新潟 和  
の心」リ्यूとびあ劇場

この催しは新潟万代太鼓振興会が企画  
制作を担当されました。万代太鼓が結成  
されたのは昭和四四年で、鬼太鼓座の結  
成より二年前になります。互いに存在は  
知っていても、交流する機会がなかった  
のですが、五年前の万代太鼓四〇周年記  
念公演に出演させていただいてから、親

しくお付き合いが始まりました。地元の  
この様な催しに出演依頼をいただくこと  
を、とても嬉しく思いました。これから  
も共に新潟を、太鼓で元気に盛り上げて  
行きましよう！新潟に万代太鼓あり！  
(報告：藤本吉利)

藤本吉利・山口幹文出演  
十／二二 東京・きものサローネin日本  
橋二〇一三・日本橋三井ホール

きものサローネは「着物の文化祭」と  
いった雰囲気、着物の展示はもちろん、  
色々なパフォーマンスが行われるなど、  
盛り沢山で楽しい催しものでした。会場  
はお洒落な和服姿の人で溢れ、ジャケッ  
ト姿の自分は違和感たっぷりでした。鼓  
童は二五〇人ほどのお客様を前に、ラン  
ウェイ付きの舞台で笛と大太鼓による約  
二〇分の演奏。ファッションショーのも  
のを使っただけか、鼓童にしてはちよっ  
と派手な照明で、いつもとは少し違った  
舞台を楽しんでいただけたと思います。  
(報告：山口幹文)

APPRENTICE CENTRE  
研修所

十／二 齊藤栄一「千里馬」稽古

『千里馬』の稽古。中学生の時に初めて  
聴いて好きになった曲です。私もあの曲  
を演奏できるようにになりたい、と親に熱  
く語っていたのを思い出しました。だけ  
ど好きな気持ちだけでは上達できない。  
皆よりも遅れてしまっているし、それで  
笑われるのはすごく悔しい。もう十月だ

し、来月と十二月には発表会も待つてい  
る。一年生、ラストスパート、もっと全力  
でやらねば。栄一さんに、「自分で限界作  
るな、血吐くまでやれ」と言われる。限界  
にはまた更にその向こうがあるのだろ  
う。バカにされても、笑われても、お前は  
無理だと言われても負けたくない、絶対  
に……。明日も頑張るぞ！  
(研修生日誌より…一年 赤澤京)

十／十 鼓童塾 齊藤栄一の太鼓編  
集合日に台風直撃の予報が出てから気  
を揉む毎日。参加者の皆さんのご心配も  
如何ばかりであったか。しかし、そんな  
我々の祈るような気持ちが天に通じたの  
でしょう、当日は奇跡のように朝から波  
も穏やかで皆さん揃って無事に佐渡入り  
することができました。

十五歳から六〇代まで、地域もそれぞ  
れの十九名でしたが、二日目あたりから  
はもう、加速度をつけて皆さんの気持ち  
がまとまっていきます。心が解放され、  
交わりあつた時の太鼓の音は本当に気持  
ちがいい。この期間、皆さんへの食事作  
りが仕事だった研修生男性五名、台所に  
て「音の本質」をひしと感じさせていた  
きました。

私達にとっても、様々な年齢、様々な背  
景をもった皆さんとの出会いは宝物。研  
修生も、次は鼓童の舞台に立つてお会い  
したい、と気持ちを強くしたようです。  
(報告：千田倫子)

## 轟きと、光と暗闇と。



1

## 『アマテラス』から『神秘』へ

日本の心の故郷、神話や民俗芸能に潜む神秘と出逢う舞台

寄稿 ● 玉重佐知子氏

## 新作『神秘』の開幕迫る

—— 巳年の縁に導かれて

地鳴りのような響きの中を渦巻く大蛇、荒ぶる鬼や囃子。ほの暗い闇に浮かび上がる、時に怖くもあり、どこか懐かしい存在。『神秘』は、日本各地に伝わる民俗芸能を持つ、神聖さや祈りの中に潜む神秘的な空気を鼓童の太鼓で表現する作品だ。神社や仏閣、あるいは、身近な森での様々なものとの出会い、そこで感じる非現実的で素晴らしい雰囲気劇場で繰り広げられる。

玉三郎さんが公演の演出のため佐渡の鼓童村に通い始めた二〇〇一年は巳年だった。それから一回り巡った巳年の今年、石見神楽の「大蛇」に学んだ蛇舞が一つの見せ場となる『神秘』が初演される。

九月、スタッフの上田恵里花さんのご案内で、石見神楽の本拠地である島根県を訪ね、温泉津町で地元神楽団体「温泉津舞子連中」を率いる小林泰三さんから蛇舞の指導を受ける『神秘』のメンバー草洋介さんと小松崎正吾さんの稽古の現場取材させていただいた。石見から、八岐大蛇退治の神話の舞台、出雲にも足をのばし、「大蛇」づくしの旅を続ける中、蛇の神様に導かれているような気がした。

六月、佐渡を訪ねた折、鼓童村は『アマテ

ラス』と『神秘』の稽古の真つ最中だった。

『アマテラス』は天照大神の「天の岩屋戸」「神秘」の蛇舞は「須佐之男命の大蛇退治」と、「古事記」や「日本書紀」でおなじみの神話が題材だ。昨年は古事記編纂から一三〇〇年、今年には伊勢神宮や出雲大社の式年遷宮が重なり、日本の国や民族の記憶の基層が顧みられる年でもあった。神話や神事を題材にした鼓童の公演が今年行われることはタイムリーで、特別な意図があるように思われた。演出家である玉三郎さんにその本意を訊ねると、「偶然です」とおっしゃる。

「遷宮と重なったのは全くの偶然。鼓童と出逢った頃、共演するなら神話がいい。古代、トンと物を叩いて音をだすところから始まった太鼓。そういう始源の音楽の一座と一緒にやるなら、太古の話、アマテラスかスサノオの話がいいと思ったのです。」

## 玉三郎さんと鼓童の十二年

——『アマテラス』『神秘』を通し、太鼓打ちから舞台人をめざす

『アマテラス』の終盤のクライマックスで、アマテラスを呼び戻すため懸命に太鼓を打ち、楽器をかき鳴らす神々。アメノウ



1 鼓童村での「蛇舞」稽古の様子。

2 坂東玉三郎氏による指導風景。石見神楽のほか、各地の民俗芸能をもとにして舞台づくりが行われている。

3 「小林工房」にて、小林さんの面づくり作業。沢山の神楽面が今にも動き出しそうに出番を待つ。

ズメの踊りで宴が盛り上がる中、賑わいに  
つられて岩屋戸から玉三郎さん扮するア  
マテラスが姿を現す。神楽や芸能の起源  
ともいえる見せ場だ。客席の中からもア  
マテラスを崇めるため息が漏れた。自ら  
を呼び戻してくれた神々の真心に、アマテ  
ラスは慈しむような眼差しで応える。そ  
の眼差しに母性のようなものを感じた時、  
佐渡の鼓童村で見た玉三郎さんとメン  
バーの練習のやりとりの光景と重なった。  
「鼓童村に通うようになって十二年が経ち  
ます。今回の『アマテラス』の舞台でセン  
ターに立っているのは、その当時研修所を  
卒業した人ばかりです」と玉三郎さん。こ  
れらの若手メンバーたちは最初から玉三  
郎さんの指導を受け育った。

「玉三郎さんに声をかけられると、研修  
生たちが格段の進歩を遂げるんです。ま  
ず、若いメンバーたちの意識と心が高めら  
れる。」

二年前、佐渡を訪れた時、鼓童村の食堂  
で、当時代表だった青木孝夫さんが、そう  
話してくださった言葉が思い出された。  
鼓童結成三〇周年記念の機に、玉三郎さん  
を芸術監督に迎えることを発表し、新体制  
を整えつつある時期でもあった。「玉三郎  
さんは一人一人に丁寧に向き合ひ、個の可  
能性を引き出してくださるので、個が立  
ち、それが全体の力になっていく。三〇歳  
になった鼓童は、個の技量アップにより、  
もっと上を目指したい。若さでただひた  
むきに打てば伝わる太鼓もありますが、歌  
舞伎の囃子方のように、太鼓一つで雪も降  
らす、そういう表現の幅がある打ち手を育

てたい。玉三郎さんが培ってこられたあ  
らゆる芸術性をメンバーに吸収してもら  
い、太鼓芸術の新たな可能性を開く組織に  
したい」と青木さんは続けた。その折、鼓  
童の研修所で篠笛を吹いていた、線の細い  
少年の面立ちの住吉佑太さんが、二年ぶり  
の今年六月、同じ場所に、頼もしい太鼓打  
ち姿で現れた。メンバーたちがひとまわ  
り大きくなり、個が立ってきたことが印象  
的だった。

「太鼓を打ち込むことが第一の目的で、  
深い大地に根ざした音を出し、同時に音楽  
的でなければならぬ。次に舞台人ではな  
ければならない。メンバーたちに自分の  
ポジションがどこなのか自覚しなさいと  
言いました。舞台人ならただの太鼓打ち  
だけではすまない。テクニクがあり、専  
門的なことがわかる舞台人としての意識  
を持ち、どんな役でもできるようならな  
いと。僕自身、役者として揚巻（あきまき）もお軽（おかる）も、  
御姫様から遊女まで演じなければならな  
かった。ファッションモデルならなんでも  
着こなせる。この人、この役の為に生ま  
れてきたのかしらと思わせるようになら  
ないと。その必要がないならそういうポ  
ジションを自分でみつけましょうと話し  
ています。」

玉三郎さんは、メンバーに「こうしなさい」とは言わない。メンバーたちは、玉三郎さんの言葉や立ち居振る舞いに啓発されながら、舞台人としての在り方を自主的に高めていく。

（注）揚巻、お軽は歌舞伎の典型的な役どころ



3

島根県では石見神楽が熱い！  
温泉津から出雲へ「大蛇」をめぐる旅。

「小林さんが神棚の前で柏手を打つ姿  
勢や作法がカッコよくて。日常生活の在  
り方が神楽の舞台につながっているんで  
す。」と草洋介さんは言う。

十年前から温泉津を訪れ、石見神楽に関  
わってきた草さんは、「罪やケガレを祓う  
など、ここでは、日常生活の中に神様が  
ある。石見神楽は、地元の人にとって、子  
どもに礼儀作法を教えたり、人間形成の場  
もある。人々の生活の中に息づいている  
民俗芸能のすばらしさに触れて、蛇舞の型  
や技術だけではなく、生に繋がる精神や奥  
にある神秘を、鼓童にしかできない舞台と  
して表現したい」という。今回、草さんは、



4 島根・龍御前神社で小林さんに「蛇舞」の稽古をつけていただく。右から、小林泰三さん、草洋介、小松崎正吾。

5 龍御前神社での夜神楽の様子。地元の方々や観光客で賑わう。

6 神楽ヒーローになりきる保育園の園児達。



同じく蛇舞を舞う七歳年下の小松崎正吾さんを伴い、小林工房で約二週間寝泊まりしながら、小林さんや「温泉津舞子連中」から蛇舞を教わり、共演しながら神楽を研究した。「この地で学びながら、大切なのは、昔も今も変わらずある、祈り、見えない明日への祈りだと思いました。稲穂が育つことへの願い、水の恵み、水害への不安、それらへの祈りが神楽の所作にこめられている。技やかっこよさより、奥にあるものを、本質に迫りたいです。ぼく自身は、蛇を舞いながら水の流れになりきれればと思います」と小松崎さんは言う。

神楽は神座(かみくら)がつつまった言葉といわれ、もともと奏楽、唱歌、舞踊、演劇といった歌舞音曲により神をお招きする神事芸能だった。しかし、明治時代、神懸かりによる託宣や、神職による演舞が禁止され、神楽は民間の手に委ねられた。石見神楽の「大蛇」は、観客を喜ばすために、竹と石州和紙でつくられる提灯蛇胴ができ、蛇の数も増え、口から火を噴くようになり、目が光り、どンドン派手になった。一九七〇年の大阪万博で、石見神楽の「大蛇」が八頭立てで披露されて以降、一躍有名になり、一気に発展したという。現在は観光促進のイベントも多い。

「最近の神楽は、見た目のかっこよさばかり追求するあまり、派手な動き、エンターテインメント性に重きがおかれ、もともとと神事として舞われていた本来の意味がなおざりにされている」と小林さんは危惧を感じている。

小林泰三さんは小学生の頃から神楽面

職人・柿田勝郎氏の元に通い面つくりを学んだ神楽面職人だ。温泉津舞子連中のベテラン舞い手としても活躍しながら、各地で神楽の指導やワークショップも主催するなど、これからの石見神楽文化の伝承を担う若手ホープでもある。街を歩いてみると「泰三さん！」とあちこちの子どもが大声で名前を呼び、手をふる。温泉津の温泉街の中央にある龍御前神社では、定期的に様々な神楽団の演目がかげられ、夕食後、孫の手を引いたおばあちゃんや、温泉に入ってほろ酔い気分のカップルなどが神楽を見にやってくる(写真5)。保育園では、神楽のお囃子を鳴らすと、子どもたちが火がついたようにいっせいに踊り出す。この地では、アンパンマンも○○レンジャーも神楽のヒーローには叶わない(写真6)。「アイドルとかスターとか表面的なかつこよさ、おもしろさだけ追う現代人は多いと思う。でも神楽は、生きてることとは何ぞやと迫ってくる。鬼や大蛇は恐怖や戒めの存在でもあり、神聖でもあり、畏怖することが、日々の感謝の気持ちにも繋がっていく。生きてることに直結しているから、子どもたちも吸い込まれる。説明的ではなく『これは一体なんだろう』と、考えるスキマがあるから夢中になれる」と小林さん。

龍御前神社の舞台で、鬼が客席まで飛び出してきたとき、おばあちゃんの脇にしがみついて泣く子どもの姿があった。子どもは五感で、体まるごとで神楽を楽しみ、怖がる。神楽はリアルなのだ。

島根県には、幼い頃から体に染み込んだ



7 「神秘」では演劇的要素や芝居も新しく取り入れている。

8 新たな照明の小道具も製作。音だけでなく視覚的にも、不思議な空間を演出。

神楽が忘れられずUターンする若者が多いという。小林さんも一度は故郷を離れたUターン組。京都造形芸術大学の学生・職員として十年を京都で過ごし、地元に戻り、面造りの小林工房をスタートさせた。

小林さんが同大学で石見神楽のワークショップを開いていたとき、同大学の学生として参加した草さん、上田さんと出逢ったことが鼓童との縁に繋がった。「風土の、土と風。土はその土地で育まれたもので、風は他所から吹いて来る新しい息吹。両者の間を行ったり来たりすることが大事かなと思います。譬えていえば、ぼくにとって石見神楽は土着的な土、鼓童は世界や全国各地を巡る風のような存在です。両者が交流することで、刺激を受け、各々にとって新しい発見や変化がおこる。」

鼓童の温泉津における稽古最後の夜、温泉津舞子連中のメンバーたちへの御礼として、草さんと小松崎さんが打ち込んだ太鼓の音には「心からのありがとう」の響きがあった。翌日は雨の中、小林さん、草さん、小松崎さん、上田さんと、六〇年ぶりの遷宮で御本殿の大屋根が葺き替えられた出雲大社に詣でた後、皆で、八岐大蛇退治の舞台といわれる出雲の斐伊川を見にいった。強風吹きすさぶ橋からは「ひゅーひゅー」と笛のような音が聞こえる。昔、斐伊川は暴れ川だったそうで、氾濫した折、大蛇の腹のように血の色になって流れたという。山麓一帯は砂鉄の産地でもあり、川床に砂鉄が流れ込んでいるせいか、川面が蛇の鱗のように見え、「大蛇だ」と、皆で叫んでいた。

暗闇に繰り広げられる『神秘』。

その奥や向こうに広がる世界。

十一月三日、いよいよ新作『神秘』が鼓童の拠点佐渡を皮切りに開幕する。新作発表に際し、玉三郎さんが寄せた挨拶文の中に、次の言葉があった。

「闇を作り出し、ロウソクの灯りの中で遭遇する物の美しさと、曖昧で不思議な感覚。神秘性の中には、恐ろしさ、滑稽さ、可愛さなど、いろいろな事柄が含まれています。昔から伝わっている蛇舞も、退治される蛇には驚く程の神聖さが備わっています。今回の舞台では闇の中からいろいろなものが現れます。鼓童ならではの太鼓の演奏に視覚的な要素も十分取り入れました。不思議な時空というのは、その場に居合わせなければ感じるものが出来ません。神事や芸能も、先人の閃きを長い時間をかけて磨き上げて来たものです。」

そして、初演を前に、玉三郎さんは次のように語ってくださった。「暗闇の中、見えるように見えない、見ようと思えば一瞬見える。その隠れようとするところに、先を行きたい、未来を見たい、光を見たい気持ちがおこる。その揺れ動きが神秘です。登場する蛇舞も、蛇の扱いをどうやったらいいのか。蛇の動きの中に、『あつ。悪の象徴としての蛇なのに、こんなに美しいものなのかしら。ほんとうは精霊なのではないかしら。』受け取る側もいろいろな感じ方をする。そう思う幅の中に神秘がある。研ぎ澄まされた芸を真心を込めて演

じたとき、芸能の神様というか、宇宙からの波が降りてくる。一人にかもしれないし、一夜限りかもしれない。それが劇場なんです。」

その言葉を聞きながら、十月二日に行われた伊勢神宮の内宮の「遷御の儀」の光景を思い出した。天照大御神をおまつりする内宮の、旧殿から新殿へのお引越は、古式ゆかしい装束と作法で古代絵巻のようだと いわれるが、その列は暗闇に包まれ、玉砂利を踏む音のみが遷御の進行を伝えた。風の流れが、温度が変わり、何か、懐かしい気がした。闇の中に気配としてのみ感じられる神秘そのものだった。二一世紀における初めての式年遷宮が、一三〇〇年という長きにわたり、延々と続けられ、数多の人々の手を経て、現代を生きる私たちの手元へと届けられた。その年、『アマテラス』と『神秘』が上演されるという偶然に、神秘を感じるのには私だけだろうか。

写真●岡本隆史、玉重佐知子、上田恵里花  
構成●上田恵里花

玉重佐知子(たましげさちこ)氏 プロフィール  
文化ジャーナリスト。早稲田大学卒。一九八八年渡英、ロンドンで西洋美術史、映画文化人類学を学んだ後、ロンドンを拠点にNHKやBBCなどのドキュメンタリー番組制作に関わる一方、美術建築デザイン、音楽、映画文化一般について、アエラ、芸術新潮、BT(美術手帖)、ミセス、日経BP社の各誌、ソトコト、Japan Times、Blue Print他に執筆。英国や日本の文化政策や文化を起爆剤にした地域振興戦略を追っている。書籍『Creative City アート戦略EU・日本のクリエイティブシティ』(国際交流基金/鹿島出版会)の一部を執筆。現在は木造伝統構法と森林文化研究のため京都に在住。

# 幾千の心の絵を咲かせて

小島千絵子

何かを探し求めて佐渡に渡り、民俗芸能より表現を探究し独自の舞踊世界を確立してきた小島千絵子。

男性多数の集団の中で女性の表現の道を拓き続けてきたその華奢な身体の中に秘められた飽くなき表現のパワーは、どこから生まれてきたのか。

小島千絵子の歩んだ道程を紐解いてみました。

写真●星野小磨、吉田勲、田中文太郎、洲崎拓郎  
構成●編集部



小島千絵子（こじま・ちよこ）栃木県出身。1976年「佐渡の國鬼太鼓座」に入座、民俗舞踊の世界に出会う。1981年「鼓童」創設に参加。太鼓中心の舞台の中で独自の舞踊の世界を切り拓いている。鼓童の舞台と同時に新たな出会いを求め、歌と踊りを中心にした女性3人の「花結」や、ソロ・パフォーマンス「ゆきあひ」などで意欲的に表現の場を拡げている。2006年、坂東玉三郎演出・主演の「アマテラス」でアメノウズメを演じ、鮮烈な印象を残した。2012年、鼓童名誉団員となる。2012年度文化庁文化交流使として、ヨーロッパ4ヶ国を訪問。

## 自分だけの何かを探して

小さい時から私はとにかく自分を表現したいという思いが強い子でした。小学生の時の作文にも「普通は嫌、個性的に生きたい」そう書いていたんです。見た目はおとなしそうですが、ちやうと変わった子だったかもしれません。

育ったのは栃木の農家です。母は「三言」と北関東名物の「かかあ殿下」の人。男に負けない働き者でした。父は無口で穏やかなやうな人。自分を表現することがしたい！と田舎からアートを目指し、武蔵野美術大学短期大学部に入学しました。

それと、小さい時から野山で遊んだり部活動もスポーツ中心で陸上もやっていたから身体を動かすことも好きでした。踊りは…そう、よく大学のダンスに出掛けて踊っていました。超ミニスカート履いて！まさに青春時代でした。その時期はどんな欲にいろんな舞台やアートを観たり本を読んだり、表現の素材を探していたんです。その中でもアンケラ演劇とか暗黒舞踏にものがくとききました。何がなんだかわからない混沌のエネルギーの爆発に共振して。また替女唄のような放浪芸とか津軽三味線とか日本人の土着的な匂いのあるものにもすごく心惹かれました。

その頃、一人旅がしたくて「端っこ」に立ちつみたて、地図を開いたら佐渡の北端、願集落の賽の河原を見つめました。そして佐渡へ。風に吹かれて海を見ながら、何とも心地よく不思議に懐かしい気持ちになりました。

当時読んでいた『話の特集』という雑誌のモウセイで、永六輔さんが鬼太鼓座のことを書いていたんです。佐渡でひたすら走って太鼓を打つ若者達がいる、彼らの澄んだ目と歌声が素晴らしい、と。鬼太鼓座ってなんだろう？その後、締め込み姿で太鼓を打つ若者それは吉利さんでした（の広告を見つけた）これは舞踏に違いない！と観に行ったら、衝撃的勘違いでした。まず篠田正浩監督のドキュメンタリー映画がありました。陽炎が立ち上るまっすぐな道を裸の若者が走ってくる。何ものかに向かつてひたすら走る同世代の若者の姿がありました。その彼らが映画の後、目の前で演奏したんです。鬼のような眼差しで何かを見据えて太鼓を打つ。「これは何？」雷に打たれ、細胞が沸き立つ音が聞こえました。



1983年当時



鬼太鼓座の頃

### 舞踊の道に踏み出す

「私が探していたのはこれだ！」鬼太鼓座がまさに活動を始めた頃。お客様は関係者を含め二〇〜三〇人くらいの時でした。翌日から私は追っかけて最前列に座っていました。それから親の説得です。「おまえを流れる者の芸人にしたくて育てたんじゃない！」母には反対され泣かれて勘当だと言われました。農家ですから定着もせず何の保証もない職業を理解するのは難しいことでした。ましてや適齢期の娘でしたから。家を出て行く時には父がそと帰りの電車賃を渡してくれました。

鬼太鼓座では、やっぱり太鼓がやりたかったんです。でも入ってみると稽古は「緒でも男性は太鼓、女性は踊りと区別があつて舞台では叩かせてもらえませんでした。太鼓は女性の象徴でバチは男性のシンボル。だから女性が太鼓を打つのは似合わない」と。女人禁制は祭りでも芸能でもありません。それまで意識もしてなかった「女性」を突きつけられて戸惑いながらも、舞台では踊り手として励むことになりました。

最初に習ったのは津軽手踊りです。青森の石川義衛先生の元へ通つてご指導をいただきました。時には内弟子のように先生のお世話をさせていただき、明治生まれの先生からたくさんのお話を学ぶことができました。そして大変な失敗も……

ある時、自分の踊りがどのくらい津軽のものになつたかを知りたくて、コンテストに出ようと自分で構成した津軽あいや節を先生に見ていただきたいんです。御辞儀をして立ち上がり踊り始めようとしたら厳しい声で「もう一回」つ

て止められて。まだ踊つてもいないのに。また始めからお辞儀をして踊ろうと思つたら、また「もう一回」。いつもは優しい先生が「それは津軽(手踊り)じゃない、津軽は両脚を揃えて立つものだ」私は共通の所作だと思つていた日本舞踊の立ち方で立つたのです。津軽手

踊りは生活の中から生まれたものだから、そんなことはやらないのだと。さらに私の構成した踊りを見た先生はもつと険しい顔で窘めてくださいました。先生が作られた踊りは唄や三味線の流れに合わせ踊つていて三位一体で生かし合うものだと。申し訳なきで震えながら、先生の手踊りの神髄に出会えた瞬間でもありました。

佐渡からきた小島千絵子の手踊りは結局、敢闘賞をいただきましたが、総評で審査員が私を名指しで言ったのは「素晴らしかった、だけどあの踊りは津軽じゃない、津軽とは……云々」。

それは私にはとても越えられそうにない高い壁、深い溝と悟りました。佐渡に根を生やして鼓童の舞台で踊る決意が出来ました。恩師、石川先生がお亡くなりになつた今でも津軽通いは続いて、若いメンバー共々学ばせていただいています。



「西馬音内」(1985年)

### 独り、暗中模索の時

鼓童になつて、舞台で女性一人が長く続いた時期がありました。その間ずっと踊っていたのが「西馬音内」です。笠を被つて顔も出さず人格もなく、上手から下手に通る過ぎる、その寂しげに浮遊している姿は当時、男性ばかりの太鼓集団で孤独な存在だった私自身的心境のようでもありました。舞台の上手から下手へ迷子の白鳥のように漂い、そこからまた翌日の舞台の上手に降り立つ。鼓童にいなながらも「鼓童の仲間に入りたい」。そんな片思いの時期を過ごしていました。

存在の曖昧さと自分への自信のなさに悩み、気持ち枯渇していた時、その状態を理解してくれたハンチョウ(故河内敏夫/初代鼓童代表)が年間の研究期間を与えてくれたことがありました。私は鼓童への情熱の魅りを求めてバリ島に飛び発ちました。超自然のサイ



EC 2012 花結

クルに生かされて謙虚に祈るバリの人々。神様への供物としての芸能が色濃く残っています。神がかりの祭事に巡り逢い、遠い記憶に触れる経験もして帰国し、バリ舞踊を取り入れた、インドネシア語で「供物」という意味の「チャナンサリ」という演目で復帰することができました。

### 表現の中で向き合った性

独り歩きの時期を経て、男性と女性、太鼓と踊りがお互いに理解し信頼し合いたいと願って、少しずつアプローチしてみることにしました。まず踊りと太鼓、男と女が対等に舞台上で存在する作品を金子竜太郎さん(元メンバー)と共に模索し「ゆきあひ」という演目を作りました。次に、踊りの楽しさを共有したいと男性陣と共に皆で岩手に神楽を習いに行つて「AMATERASU」と名付けた群舞の作品を上げさせていただきました。

そして私は遂に太鼓の世界に踏み込んでいきます。ずっとやりたかった憧れの太鼓、誰でも自由に好きな時に好きなように叩ける八丈島の太鼓は、私が女だからと言って拒みはしませんでした。女性という性を朗らかに誇らしく、踊り手として太鼓に向き合った「花八丈」を作りました。

「花八丈」の海外デビューは九九年の北米太鼓カンファレンスでの花結公演でした。打ち終わった瞬間に客席が総立ちになりました。その興奮したお客様の様子に、私自身がびくつきりして…鼓童のいわばマイノリティである私の歴史が作った太鼓が、観る人の心のひだに共鳴し、共震していただけたことが嬉しかった。「女で良かった、踊り手で良かった」とやっと

思えた舞台でした。

女性の表現については、特に永六輔さんや伊藤多喜雄さんが応援してくれました。鼓童の舞台があまりにも男性、刃倒だから、もっと明るく弾けなさい、臨機応変になりなさい、女性が頑張りなさいと。

「花結」は、私が出産してしばらくツアードにけなかつた時期に、女性本来の明るさや強さ、朗らかさや癒やかさ、ありのままを善しとして作った女性ユニットです。唄の容子さん、琉球舞踊の金城光枝さん。そして踊りの私。名前に「結」という言葉がひらめきました。女性それぞれの「花」を持ち寄つて、二つの花束にしたい。そんな気持ちで佐渡を中心にお客様の元に向く小回りのきく活動を始めました。唄、踊り、太鼓、更に笑いありおしゃべりあり、子どもも出演ありで、当時の鼓童ではありえない路線でした。

また鼓童の舞台では踊りの出番が限られていたこともあり、いろいろやりたい私は自分の表現の発露としてソロ活動に活路を求めました。外部の方々との出逢いは、ひとつひとつが私を成長させてくれる宝物でした。行き逢うという意味を込めた「ゆきあひ」は以後、私のソロ公演のタイトルにもなりました。

芸能の始まりを説く古事記の「天の岩屋戸開き」の神話は、芸能者で在りたいと探れば探るほどに辿り着くテーマの一つでした。太鼓も踊りも男も女もひとつになつて祈り、そのエネルギーが天の岩屋戸を開け、世の中が光を取り戻すという神話は、私が望み続けてきた理想の舞台の形でした。

その願いを込めて作舞した創作神楽

「KAGURA」では鼓童の太鼓に囲まれて一緒にお客様との心の岩屋戸を叩き元気になるっていただきたいと舞いました。そして坂東玉三郎さん演出の初演「アマテラス」でのアミノウズメのシーンに取り上げていただき、頑張つて舞い続けてきた「褒美」のようでした。

鼓童の舞台では演出される側ですが、公演の最初から最後まで世界を創り上げる「演出」にも面白さを感じてきました。鼓童の音、演奏者を演出したいというのはずっと思っています。それも大きな舞台ではなく客席と近い距離間で。音楽、踊り、舞台美術、衣装などが一緒になった総合的な舞台を観ていただき、その後の人生にまで影響を与えるような、鬼太鼓座の舞台で私に革命が起つたような、そんな舞台を創ってみたいと。

宮大工の棟梁がお寺とか建物を建てるのは、木をどう組むか以前にどう人を組むかが大切だという話を聞いたことがあります。作品づくりつてそこに関わる「人」なんだと思います。出演者それぞれの個性が活きて、そこに携わるみんなが生きていきとやりがいを感じている、応援してくださる主催者の皆様も含



2013年「桜・舞・道成寺」より「清姫」(主催者提供)



鼓童 佐渡特別公演 2013 - 春 - 「花八丈」

めて、作り手側が喜びに満ちて、その舞台でお客様に喜びが伝染するような舞台を創りたいのです。澄んだエネルギーでこれでもかかっていうくらい一生懸命、今できることを出し尽くしたい。演出という側からそうしたいのです。

### 佐渡に思いを寄せて

佐渡。今、私の中でますます大きくなってきました。最初に佐渡に惹かれて、ここに根を張り、鼓童と共にここを拠点に活動し世界を廻って、今は佐渡に帰り佐渡を盛り上げることをさせてもらっています。ひと回りして帰ってきた感じです。

田さん(故田耕/鬼太鼓座代表)が、日本中を放浪して、佐渡を選んだのは本当に素晴らしいと思います。来た人を魅了するエネルギーがある島。佐渡だからこそ、できた私達の活動だと思えます。

ここは世の中のダンスシーンからは隔てられた地でもあります。でも、ここがいいんだと思えたのは、私自身が表現に求めているものが人間の営みから生まれる普遍的なものだからです。それを求めるならここが最高の場。八百万の神々を身近に感じる、一番ふさわしい場なのです。そして、海を渡るといふのは、何か襖ぎをするように特別な場所に帰ってきて集中してものづくりができる芸能の聖地だと思います。

そんな大好きな佐渡に恩返しする、名誉団員を中心に去年から始めた佐渡特別公演。財団事業の重要な柱として、演出を任せられ座長を務めさせてもらっています。佐渡の小さな芝居小屋で昔ながらの鼓童の姿をお迎えする。故郷に帰ってきたようなホッと温かい舞

台を目指しています。小さい空間ですから反応も凄く伝わってきます。それに応じて返す心のやりとりができるんです。客席の熱が変わっていくのが手に取るように判ります。最後は、なんだか舞台と客席がひとつの家族のようでした。

### そして、これからの私

これまでの私の歩みは、成果として鼓童の中にも実を結んでいるように思います。今、若い人達を中心にさらに表現を革新しようとしています。鼓童は一つの生命体。その生命体を作っている細胞の一人一人が、みんな生き生きと活性して欲しい。そして私達ベテランは、彼らの新たな表現を可能にする末広がりな鼓童の「扇の要」として、しっかりと支えていたいと思います。鼓童の未来を望んで、それぞれの旅に出ている若手やベテランが、いつかまた舞台で再会して、お客様にその旅の成果を見ていただける日が待ち遠しいです。

そして今は、私にとっても転機。まずは自分に向かつて「ごころうさん、お疲れさま」と言いたい。今まで鼓童の女性の存在を勝手に背負ってきたけれど「もう十分、肩の荷を降りしてもいいんじゃない？」って。自らを縛っていた枷をほどいて、これからは、自分に照準を合わせて、また何もなかったところからの活動開始。すごく大変な作業だと思います。でも、今までもそのような役どころだったように思うし、地道な道程だったけれど、その大変さが好きだったんだと思う。たまたまなく楽しかったんです。倒れても何か掴んで復活できたし、それが心のインナーマッスルを鍛えだし、乗り越えて作り上げた世界をお客様に喜んでいただけ

ば、それで報われたのです。私がこうして鼓童で踊って来られたのは、やっぱり仲間のおかげ。自分で孤独を作っていたんだなって。一緒に鼓童を担って歩いて来た仲間がいてこそ。感謝しています。そして見てくださるお客様の御陰。各地で応援してくださる皆様の御陰。私たちは一生懸命魂込めて舞台上に立ち、光を放ち、たくさんの魂の拍手の光に反射して存在できるのだと思います。

私の表現の軸は、日本古来から数珠つなぎのように続く民俗芸能で、私もその気の遠くなるような繋がりの中の、数珠のひとつのような気がします。それを持って舞台という祭りの場で、自分のために、というよりも自分以外のもののために踊る。私がこの世に生を受けたのには何か意味がある。自分の存在が役に立つことが嬉しいし、踊ることが私に与えられた役割だと思っています。

これからも、太鼓のうねりの渦中にいたい。佐渡で魂に響いて来るものに心を澄まして、自分の感性が導く頂を目指し、唯無二な表現者でありたい。観る人を寿ぐ芸能者、佐渡のチンドン屋、そして、いのちの道化師でありたい。

この頃、つらつらと夢見て喜んでるんです、次なるミッション・インポッシブル！ 大好きな佐渡を舞台に千絵子の世界を映像にしたいなあ、なんて。

(十月十五日、鼓童村で話を聞きました)

※十二月三日(月、祝)に文京シビックホールに於いて小島千絵子トーク&ライブ「紅の寿」を開催します。詳しくは本誌二六ページまたは同封のチラシをご覧ください。



## 芸能、人々を突き動かす力

～鼓童、奈奈子祭に応援参加～

二月の「奈奈子祭」にて。造形・色彩・振りに目を見張る田郷鹿子踊（たごうししおどり）。民家の庭で繰り広げられる芸能の形。

私達の舞台は、日本人が連綿と伝えてきた郷土芸能と出会い、気持ちが奮い立つような刺激を受け、憧憬と尊敬を持ちながら学びを請うことから始まりました。その大切な東北沿岸の郷土芸能が震災で存続の危機に陥りました。

しかし、まだまだ生活の見通しもつかない苦しい状況下でも、芸能復活の声は着実に重ねられています。それは、地域の復興の為に芸能が必要なのだという、継承者達のゆるぎない確信による力強い一歩に他ありません。郷土芸能とはいったい何なのか。そのヒントになるような芸能祭「奈奈子祭」に出演させていただくことになりました。三陸沿岸の持続的な復興を応援しようと模索、挑戦するこの祭りをご紹介し、願わくば多くの方々と現地でお会い、この祭りでの味わいを共有・共感したいと思います。

文●千田倫子 写真提供●西嶋一泰氏(民俗芸能STREAM代表) Heartbeat Project Logo Design: Haruna Kino

### ◆ 奈奈子祭のはじめ

今年一月にNHKで放送された復興サポートの番組で、壊滅的な被害を受けた釜石市鶴住地区を中心とする芸能団体の代表者が集まりました。郷土芸能を通じて、バラバラになった住民がまた集まり元を取り戻す為にはどのようなようにすれば良いのか、そして今日集まった団体で数年後にでも郷土芸能祭が出来れば良いなという話になったそうです。しかし、そこで参加者の笹山奈奈子さんが、「近く実家に神楽を呼ぶので、数年後と言わず、みんなそこに来たらいい」と発案。即実行！の機運が高まり、約一ヶ月後の二月二四日、発声者の名前をタイトルにした『奈奈子祭』が釜石市箱崎町白浜で開催されました。

### ◆ 三陸沿岸に生きる廻り神楽

笹山奈奈子さんのご実家は、鶴鳥神楽の神楽宿。この三陸に今でも残る廻り神楽とは、鶴鳥神楽（普代村）と黒森神楽（宮古市）が行っているもので、冬の三ヶ月間、権現様と呼ぶ獅子頭を奉じて隔年で北と南を交互に廻り、それぞれ約百キロの沿岸を巡回します。各集落では重立ちの家が「宿」となり地域の人々を集めて、神聖な演目から笑いが巻き起こる演目まで、その喜び、楽しみを享受します。そこにはもう、演者と観客の境はありません。神楽宿という空間は、権現様に見守られながらお互いの交歓の場。芸能を紹介して双方が生きる力を養っている場でありました。そんな貴重な神楽宿を、こ

の震災は数多く奪ってしまったのです。

◆ まるで神楽宿のような祭り、を目指して『奈奈子祭』は、そういった神楽宿のような空間を再現して、被災地域の芸能に場を提供して応援し、地元の人には元気を取り戻してもらおう。そこに旅人をも引き入れ、芸能の持つ力を皆で感受し合おうという、新しい形の祭りです。

実行委員長は、奈奈子さんのご主人である笹山政幸さん。奈奈子さんのご実家の白浜の神楽宿の当主名代も務められていました。ご自身も仮設住宅に暮らす被災者であり、所属する芸能団体、釜石市の由緒ある『南部藩壽松院年行司支配太神楽』も被災されています。そんな状況にありながら、震災の年の七月、笹山ご夫妻は宿主として釜石の避難所慰問公演を鶴鳥神楽に依頼、実現させました。また神楽宿である白浜のお宅は一部が大破していましたが、ご夫妻の何としても地域住民の集まる場を守りたいという情熱に支援も寄せられ、家を修復し、翌年の一月には鶴鳥神楽の来訪を例年どおり迎えるという偉業を成しました。その人々を繋ぐ芸能への信頼、地域への思いの深さには驚きを隠せません。

この鶴鳥神楽を通じてご夫妻と出会って以来二人を応援し続けているのが、追手門学院大学教授の橋本裕之先生、『奈奈子祭』実行委員の一人です。橋本先生は震災当時、盛岡大学に教授として在籍し、岩手県の民俗芸能調査研究や、無形民俗文化財指定に携わっておられました

## 2013.7.27～28 『奈奈子祭～夏の陣～』

### ツアー 1泊2日コース参加ミニレポート

#### — 初日 —

午前：新花巻駅集合。東京・盛岡と、大阪方面から新花巻空港入りした参加者の方々と合流。沿岸の釜石に向けてバス移動中、橋本先生による震災以降の芸能状況などのレクチャー。

お昼：会場である釜石市鶴住居町根浜<sup>ねばま</sup>の旅館「宝来館」到着。(甚大な被害を受けたこのお宿も、女将さんはじめ応援者の不屈の思いで再オープンした。)婦人会の方々の郷土食や釜石のキッチンカーによる昼食メニューを楽しむ。

午後：『奈奈子祭』開始。地元の仮設住宅から集まってきた方々に混ぜてもらって私達も鑑賞する。出演は地元釜石、大槌町、山田町、普代村、そして花巻から、「桜舞太鼓」「尾崎青友会虎舞」「雁舞道七福神」「愛宕青年会八木節」「鶴鳥神楽」「岳神楽」。ほとんど初めて目にする芸能の数々。しっかりと演舞する若者達の姿に、沿岸の人々の心意気を感じた。

夜：「岳神楽」「鶴鳥神楽」の方々と対面しての夕食(直会)。先ほどあんなに凄い舞をしていた神楽衆が目の前に。何を聞いても優しく楽しく答えてくれました。神楽衆が、ご馳走をいただく前に御礼を込めた唄「御祝」を唄ってくださる。これを聴ける機会は滅多にないだろう。美しい節。荘厳な気持ちになって自然と頭が下がる。

#### — 2日目 —

午前～午後：昨日の出演団体の土地を訪ねる。山田町、唐丹、釜石、雁舞道。バス移動中は橋本先生の解説があり、現地では芸能団体の代表の方が迎えて直接話して下さる。降り立った場所からは、かつての町の姿が想像できない。どの団体の方も練習場所に困っている。建物がまず無いし、あっても借りて使うこともままならない状況とのこと。そんなことさえ、言われなければ気がつかない。しかし、まずこうやって芸能団体の方と他所の者が話をし合うことが、お互いにとって貴重だという実感を覚えた。

15時：各地の訪問が名残惜しく少しずつ伸びて、お昼は駆け足で釜石駅周辺のお勧めの飲食店に散らばる。15時頃、沿岸を離れる前に釜石駅前でお土産など購入。ここからはバスで花巻へ移動。花巻空港、盛岡、東京に向けてそれぞれの帰途につく。

が、震災後は情報収集がままならない中、被災地を歩き回って各種の助成事業を紹介し、申請作業も手伝うなどの支援に尽力され、芸能継承者と支援者を結びつけるプロデューサー、コーディネーターとしての役割を担ってこられました。

◆『奈奈子祭』の企画は、これまで橋本先生が出会ってきた芸能団体・個人・支援者の繋がりが生み出しているとも言えるでしょう。今回、鼓童が『奈奈子祭』の冬陣へ応援出演することになったのも、この二月に私が訪れた大槌町の芸能祭で橋本先生のお話を伺ったことに端を発しています。先生とは、佐渡の芸能のご案内をするなど古くからのご縁がありまし

◆『奈奈子祭』に参加しませんか  
鼓童は『奈奈子祭』を応援します!!  
ご縁で繋がった大槌町で開催される『奈奈子祭』。当日は、鼓童も応援出演ということで参加させていただきます。仮設住宅から集まってくくださるだろう大槌町の「おじいちゃんやおばあちゃん、皆さんに楽しんでもらえるよう、例えば「佐渡特

別公演」のような親しみを感じていただける舞台が届けられればと思っております。が、同時に私達も被災地の現況に目を凝らし、芸能が果たす役割、力をしっかり感じとってきたと思っています。

『奈奈子祭』では、JTBによるツアーが四つ企画されています。すべてのコースの料金に芸能祭支援金が含まれているので、まずは、現地を訪れて芸能を楽しむこと、それ自体が支援になります。何かできることを、と日々東北沿岸に気持ちを寄せている皆様、ぜひこの機会に郷土芸能の力を見にいきませんか。

### 『奈奈子祭～冬の陣～』に応援出演

日時:12月7日(土) 14:00～18:00

会場:三陸花ホテルはまぎく(岩手県大槌町浪板海岸) 入場:無料

出演:白澤鹿子踊(大槌町) / 城山虎舞(大槌町) / 雁舞道七福神(大槌町) / 愛宕青年会八木節(山田町) / 鶴鳥神楽(普代村) / 早池峰岳神楽(友情出演:花巻市) / 鼓童(応援出演:佐渡)

#### JTBツアーのご案内

- ①1泊2日の参加コース(東京・岩手発着)
- ②1泊3日の夜行バス利用コース(東京発着)
- ③弾丸ツアー 0泊2日(東京発着)
- ④ボランティア2泊3日(東京発着)

詳細は、<http://www.jtb.co.jp/tabbeat/volunteer/> から各コースへお問い合わせは、JTB コーポレートセールス Tel. 03-8737-9410



7月の『奈奈子祭』にて鶴鳥神楽。実は笹山さんのご子息も若き鶴鳥神楽衆。この春から普代村に就職したのを機に、幼い頃から慣れ親しみ、憧れた神楽に打ち込む。

# KODŌ 公演情報

託…託児あり 先…鼓童の会会員先行予約あり 指…全席指定 自…全席自由

(10月31日現在)

## 鼓童ワン・アース・ツアー2013 ～神秘

### 11/23 (土・祝) 新潟県佐渡市

アミューズメント佐渡  
両津港から車で30分、バス35分。佐和田バス・ステーションより徒歩5分

18:00開場 18:30開演

SS席 4,500円 (1階1列～13列)

S席 4,000円 (1階14列～29列)

A席 3,500円 (2階1列～3列)

B席 3,000円 (2階4列～7列)

指

※学生(小学生～高校生)は各席種とも2,000円引き。当日会場入口で差額の2,000円を返金します。中学生以上の方は身分証明書をご持参ください。

未就学児の入場は不可

託 要予約 鼓童 Tel. 0259-86-3630

チケット発売中

問) 鼓童チケットサービス

Tel. 0259-86-2330

### 12/3 (火) 愛知県名古屋市

愛知県芸術劇場コンサートホール  
名鉄瀬戸線「栄町」、地下鉄東山線・名城線「栄」4番出口徒歩3分

18:00開場 18:30開演

A席 6,000円 B席 4,000円 指

未就学児の入場は不可

チケット発売中

問) 中日劇場 Tel. 052-263-7171

### 12/7 (土), 8 (日) 大阪市

NHK 大阪ホール

地下鉄谷町線「谷町四丁目」駅2番出口より徒歩約3分、地下鉄中央線「谷町四丁目」駅9番出口すぐ

7日(土) 18:00開場 18:30開演

8日(日) 14:30開場 15:00開演

前6,000円 当6,500円 指

未就学児の入場は不可

チケット発売中

問) ページ・ワン Tel. 06-6362-8122

### 12/10 (火) 岡山市

岡山市市民会館

「岡山」駅より路面電車「東山」行き乗車、「城下」下車徒歩3分

18:00開場 18:30開演

5,500円 指

未就学児の入場は不可

チケット発売中

問) 岡山音協 Tel. 086-224-6066

### 12/13 (金) 新潟県上越市

上越文化会館 大ホール

「直江津駅前通」バス停①番か②番から乗車「市役所前」下車、徒歩0分

18:00開場 18:30開演

S席 6,000円 A席 5,000円 指

未就学児の入場は不可

チケット発売中

問) 上越直江津ライオンズクラブ事務局

Tel. 025-525-1185

### 12/14 (土) 完売

新潟県長岡市

JR 長岡駅大手口10番線から乗車「市立劇場前」バス停下車、徒歩0分

長岡市立劇場大ホール

18:00開場 18:30開演

S席 6,000円 A席 5,000円 指

未就学児の入場は不可 託 12/7 (土)

までに長岡市芸術文化振興財団 (Tel. 0258-29-7715) へお申込みください。

問) TeNY チケット専用ダイヤル

Tel. 025-281-8000

長岡市芸術文化振興財団事業課

Tel. 0258-29-7715

### 12/15 (日) 新潟市

新潟県民会館大ホール

「新潟」駅万代口よりバスで約20分

18:00開場 18:30開演

S席 6,000円 A席 5,000円 指

未就学児の入場は不可 託 11/29 (金)

までに TeNY チケット専用ダイヤル (Tel. 025-281-8000) までお申込みください。

チケット発売中

S席は完売、A席は残席わずかです。

問) TeNY チケット専用ダイヤル

Tel. 025-281-8000

新潟県民会館 Tel. 025-228-4481

### 12/18 (水) 神奈川県横浜市

KAAT 神奈川県芸術劇場ホール

みなとみらい線「日本大通り」駅徒歩5分、JR・市営地下鉄「関内」駅徒歩15分

18:00開場 18:30開演

6,000円 指

未就学児の入場は不可

チケット発売中

問) tvk チケットカウンター

Tel. 0570-00-3117

### 12/20 (金) -23 (月・祝)

東京都文京区

文京シビックホール 大ホール

東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園」駅、都営地下鉄三田線・大江戸線「春日」駅より直結

20日 18:30開場 19:00開演

21～23日 13:30開場 14:00開演



(10月31日現在)

S席 7,000円 (1階全席、2階13列まで)  
A席 5,000円 (2階14列以降) 摺  
学生券 (S席A席共通) 3,000円  
未就学児の入場は不可  
チケット発売中  
問) 鼓童チケットサービス  
Tel. 0259-86-2330  
tvk チケットカウンター  
Tel. 0570-00-3117

**12/24 (火) 東京都文京区**  
文京シビックホール 大ホール  
13:15開場 14:00開演  
S席 7,000円 (1階全席、2階13列まで)  
A席 5,000円 (2階14列以降) 摺  
<クラブツーリズム貸切公演>  
**クラブツーリズムの会員以外の方でもご  
入場いただけます。**  
未就学児の入場は不可  
チケット発売中  
問) クラブツーリズム Tel. 03-5323-6799

『奈奈子祭～冬の陣～』  
小編成で出演

**12/7 (土) 岩手県大槌町**  
三陸花ホテルはまぎく (大槌町浪板海岸)  
14:00～18:00  
出演:白澤鹿子踊/城山虎舞/雁舞道  
七福神/愛宕青年会八木節/鶴島神  
楽/早池峰岳神楽/鼓童からは小島  
千絵子、見留知弘ほかが出演予定  
入場無料  
※本誌12～13ページもご覧ください。  
東京、岩手県内発着のJTBツアーが  
企画されています。

福巖寺 火渡り神事  
ゲスト出演

鼓童特別編成 (出演予定:船橋裕一郎、  
石塚充、中込健太、前田剛史、立石雷、  
福島雅仁)

**12/8 (日) 愛知県小牧市**  
福巖寺 名鉄バス (六軒屋・桃花台セ  
ンター経由【桃花台東行き】)「城山4  
丁目」下車徒歩10分  
鼓童は17:00頃から20分程演奏 (天  
候、進行具合により時間が変更になる  
場合がございますのでご了承下さい。)  
入場無料  
問) 福巖寺 Tel. 0568-79-2183

鼓童交流公演

出演 (予定):船橋裕一郎、石塚充、中  
込健太、前田剛史、立石雷、福島雅仁

**12/14 (土) 岩手県奥州市**  
前沢ふれあいセンター ホール  
JR 東北本線「前沢」駅西口より北へ  
徒歩約5分  
13:30開場 14:00開演  
前 一般 2,000円、学生 (小学生～高  
校生) 1,000円  
当 一般 2,300円、学生 (小学生～高  
校生) 1,200円  
☑ 未就学児の入場はご遠慮ください。  
チケット発売中  
問) 前沢ふれあいセンター  
Tel. 0197-56-7100

**12/18 (水), 19 (木)**  
東京都国立市  
鼓童 親子コンサート  
くにたち市民芸術小ホール  
JR「国立」駅南口バス乗場4番より  
立川バス、矢川駅、国立操車場、又  
は国立泉団地行き「市民芸術小ホール・  
総合体育館前」下車。JR「矢川」駅、  
「谷保」駅より徒歩10分  
18日 (水) 15:00開場 15:30開演  
19日 (木) 16:30開場 17:00開演  
おとな 2,000円、こども 1,000円 (4歳  
以上中学生まで) ☑ 3歳以下のお子  
様の入場はご遠慮ください。  
チケット発売中  
問) くにたち市民芸術小ホール  
Tel. 042-574-1515  
※太鼓経験者対象の太鼓ワークショップを同時開催  
します。詳細は今月号の14ページをご覧ください。

2014年

鼓童ワン・アース・ツアー2014  
～伝説 ヨーロッパ

**1/29 (水) イタリア、ローマ**  
Auditorium Parco della Musica -  
Sala Santa Cecilia  
**1/31 (金) -2/2 (日)**  
イタリア、ミラノ  
Triennale - Teatro dell'Arte

**2/7 (金) -2/12 (水)**  
(10日は休演) フランス、パリ  
Théâtre du Châtelet  
**2/15 (土) イギリス、プール**  
Lighthouse  
**2/17 (月) イギリス、バーミンガム**  
Symphony Hall  
**2/19 (水) イギリス、リヴァプール**  
Philharmonic Hall  
**2/20 (木) イギリス、マンチェスター**  
The Bridgewater Hall  
**2/25 (火) イギリス、ゲーツヘッド**  
Sage Gateshead  
**2/28 (金) イギリス、ブライトン**  
Brighton Dome  
**3/3 (月), 3/4 (火)**  
ドイツ、ミュンヘン  
Philharmonie im Gasteig  
**3/5 (水) ドイツ、ベルリン**  
Berliner Philharmonie  
**3/9 (日) ドイツ、シュトゥットガルト**  
Liederhalle - Stuttgart / Hegel-Saal  
**3/11 (火) ドイツ、フランクフルト**  
Alte Oper Frankfurt Konzert- u.  
Kongresszentrum GmbH  
**3/15 (土) ドイツ、ハノーファー**  
Kuppelsaal Hannover Congress  
Centrum  
**3/17 (月) オランダ、フローニンゲン**  
De Oosterpoort  
**3/19 (水) オランダ、ハーグ**  
Dr Anton Philipszaal  
**3/22 (土) スウェーデン、ウプサラ**  
Uppsala Konsert & Kongress  
**3/24 (月) エストニア、タリン**  
Nokia Concert Hall  
**3/31 (月) ロシア、モスクワ**  
Crocus City Hall

# 鼓童カレンダー 2014

「鼓童カレンダー 2014年版」の発売開始です。  
オンラインストア、「神秘」ツアー会場でも販売いたします。



## 鼓童カレンダー 2014

モノクロ16ページ 11月15日より発売予定  
 価格：1,200円 鼓童の会会員価格：1,000円  
 価格は税込みです。お求めは便利な「鼓童オンラインストア」で  
<http://kodo.or.jp/store/>

鼓童グッズのお問い合わせはこちらまで  
**Tel. 0259-86-3630 (販売部)**



舞台写真6点のほか、舞台メンバー全員の  
ポートレートも掲載しています。

## 太鼓ワークショップ(東京・国立市)

くにごたち市民芸術小ホールで太鼓ワークショップを開催いたします。講師は石塚充、中込健太です。同時開催のコンサートの詳細は、付録の「KODO公演情報」をご覧ください。

## 鼓童 太鼓ワークショップ

12月18日(水)講師：石塚 充  
 基礎打ち講座① ～しなやかに、そして力強く  
 12月19日(木)講師：中込健太  
 基礎打ち講座② ～大きな音を、大きな振りで  
 時間・料金：両日19:00～20:30 (90分)  
 各講座5,000円(税込) 定員各20名(和太鼓経験者に限る)。10/15より受付中。定員に達し次第受付を終了します。  
 問・申込：くにごたち市民芸術小ホール  
 Tel. 042-574-1515

## 藤本吉利 太鼓合宿 in うと

ケヤキの太鼓が26基現存する熊本県宇土市で、今年3月に引き続き藤本吉利が太鼓合宿を行います。技術の習得ではなく、藤本の人柄から「太鼓人生」を感じていただく2泊3日の合宿ワークショップです。

## 藤本吉利 太鼓合宿 in うと

日時：2014年  
 2月6日(木)～2月8日(土)  
 場所：宇土市民会館  
 受付：11月1日より受付中  
 料金：30,000円  
 (宿泊費、バチ代込み)  
 問：宇土市民会館  
 「太鼓合宿」係  
 Tel. 0964-22-0188  
 Email: utobunka@nifty.com

# ソロ・小編成公演・交流公演

## 小編成公演(京都市東山区)

### 六波羅蜜寺開山1050年記念法要奉納舞

京都・東山区の六波羅蜜寺開山1050年記念法要(11月16日〜24日)の初日に行われる奉納舞を鼓童小編成で坂東玉三郎氏と共に務めます。

### 山口幹文「一管風月コンサート」(新潟県新発田市)

新発田市立竹俣小学校が平成25年度で閉校になります。明治23年に創立してから二四年で歴史を閉じるにあたり、竹俣活性プロジェクト

## ソロ・小編成公演

### 六波羅蜜寺(京都市東山区)

#### 開山壹仟五拾年記念法要 御本尊特別御開帳 奉納舞

日時:11月16日(土) 14:00~ 入場無料  
奉納:坂東玉三郎、鼓童(藤本吉利、山口幹文、船橋裕一郎、中込健太、立石雷、福島雅仁)  
問:六波羅蜜寺 Tel. 075-561-6980 (代)

### 山口幹文「一管風月コンサート」(新潟県新発田市)

出演:山口幹文、佐藤世子  
日時:11月17日(日) 15:00開場、15:30開演  
会場:新発田市立竹俣小学校 合同学習室  
前売:2,500円、当日:3,000円  
新発田市民文化会館内 喫茶・紫音にてチケット発売中。  
電話やメールでも申込受付中: Tel. 090-5434-3185 小柳 takemata.p@gmail.com

### チビ太鼓 結成20周年記念コンサート(カナダ・バンクーバー)

出演:チビ太鼓、藤本吉利、藤本容子 ほか  
日時:11月30日(土) 18:30開場、19:30開演  
会場:バンクーバー・プレイハウス www.vancouverplayhouse.com  
料金:大人\$25、学生・シニア\$20  
問:Email tickets@chibitaiko.com www.chibitaiko.com

### 小島千絵子&梵天 梵天特別公演「道成寺」(東京都港区)

日時:12月14日(土) 15:31開場、6:00開演 会場:青山草月ホール  
全席指定 ※チケットは完売しました。http://www.bonten-taiko.com

### 鼓童交流公演 in 大子町(茨城県)

出演:鼓童(船橋裕一郎、石塚充、中込健太、前田剛史、立石雷、福島雅仁)  
日時:12月22日(日) 14:30開場、15:00開演  
会場:大子町文化福祉会館「まいん」文化ホール  
前売:一般2,500円、高校生以下2,000円 当日各500円増し  
全席指定、3才児以下の入場はご遠慮ください。  
11月16日(土) 9:00から発売  
チケット取扱い:大子町立中央公民館 9:00~16:00 Tel. 0295-72-1148 ※チケットの販売は、お一人様4枚までとさせていただきます。  
問:大子町教育委員会生涯学習課 Tel. 0295-72-1148

クトが記念コンサートを企画しました。共演は佐藤世子さんです。木造校舎で奏でる真笛とピアノ、チェンバロの演奏をお楽しみください。

### チビ太鼓 結成20周年記念コンサート(カナダ・バンクーバー)

藤本吉利、藤本容子が永年交流を続けている、バンクーバーのチビ太鼓の結成20周年記念コンサートに特別ゲストとして招かれ、出演いたします。

### 小島千絵子&梵天 梵天特別公演「道成寺」(東京都港区)

梵天 仲林光子(薩摩琵琶)、仲林利恵(笛、琴)との共演による安珍と清姫の物語。小島千絵子&梵天の舞舞台「道成寺」の再演です。  
※チケットは完売しました。

### 鼓童交流公演 in 大子町

茨城県大子町に、鼓童交流公演がお伺いいたします。本公演は4才以上のお子様からご覧になれますので、お子様と一緒に身近に和太鼓の響きを感じてみませんか。

## 〜春夏秋冬〜

### 千絵子流女打ち講座(冬)

東京・目黒区の大鼓の里 響和館で開催してきた「千絵子流女打ち」ワークショップの最終回です。入門編とステップアップ編があります。講師:小島千絵子

#### 基礎・入門編(対象:初心者、初級者)

立ち方、体の使い方、バチのまわし方、基本リズムなどを学びます。定員:10名

#### 基礎・ステップアップ編(対象:経験者)

最終仕上げです。着物を着て曲を打てるようになりましょう。定員:10名

### 〜春夏秋冬〜 千絵子流女打ち講座<冬>

- 1) 基礎・入門編 料金:7,875円(税込)  
日時:2014年1月26日(日) 11:00~13:30 (150分)
- 2) 基礎・ステップアップ編 料金:9,450円(税込)  
日時:2014年1月26日(日) 15:00~18:00 (180分)  
持ち物など:履物持参(着物足袋又は、靴下など)  
使用バチ 長さ400mm×太さ22mm(響和館で販売中)  
着物(浴衣)をお持ちの方は、着物で練習できますのでご持参ください。  
問:太鼓の里 響和館 Tel. 03-3714-2774

## 今月の付録

◎ KODO 公演情報  
◎ 小島千絵子トーク&ライブ「紅の寿」チラシ

## ◆小島千絵子トーク&ライブ「紅の寿」◆

小島千絵子が佐渡に渡り、鬼太鼓座を走り抜け鼓童で過ごした芸歴37年間の軌跡を綴る  
 「小島千絵子トーク&ライブ～紅の寿～」をこの度開かせていただくこととなりました。



「竜宮城のような佐渡で、一所懸命に過ごして参りましたが、気が付けばあっという間にこんなに年月が経ってしまいました。まだまだ玉手箱を開ける訳には参りませんが、途中経過の一区切り、少しだけ昔話を語れそうな気がします。語り尽くせないところは踊ったり叩いたり、ゲストもお招きしていろいろ楽しい舞台を計画中です。いままで応援してくださった皆様へ感謝の気持ちを満載に、ますます旬な千絵子でお待ちしております。」

### 小島千絵子トーク&ライブ「紅の寿」

日時:12月23日(月・祝)

17:30開場、18:00開演

会場:文京シビックホール大ホール

会費:鼓童の会会員1,500円、一般2,000円

※高校生以下無料(未就学児の入場も可能です。)

全席自由

鼓童チケットサービスでの受付方法:今月号に同封しました申込用紙をファクスでお送りいただくか、またはお電話、Eメールでお申し込みください。

申込締切:12月13日(金)

お申し込み後にお支払いに関するご案内をお送りいたします。問:鼓童チケットサービス Tel. 0259-86-2330

写真:宮川舞子

鼓童についての最新情報は、ホームページをご覧ください。

<http://www.kodo.or.jp>

鼓童事務所へのお問い合わせはこちらへ。

Tel. 0259-86-3630 (代) / Fax. 0259-86-3631

Email: heartbeat@kodo.or.jp

▼小さい頃から好きだった写真を撮る行為は、いつからかデジカメや携帯になり、そのままパソコンに保存する習慣がついていました。最近改めて印刷物に興味が出て、気に入った写真はプリントして残しています。紙の質感や画面の光沢が手で感じられる事が好きです。ネットでプリントができる時代。しばらくマイブームは続きそうです。(瑠)

▼柿畑は、山間から海が見える絶景ポイントにあります。研修生のおしゃべりを聞きながら「柿もぎ」をしていると、色々な思い出が蘇ります。秋の日差しは心地良く、心身のフレッシュとなりました。佐渡の秋(柿)を、ご賞味ください。(み)

▼二歳になった阿部家の娘の成長が目覚ましく、保育所から事務所に帰ってくるのが楽しみ。昨日言えなかった言葉が言える、歌が歌える。この子たちに広がる未来はいかほどかと思うこの頃。ツアー戻りのメンバーに囲まれて、好江から離れない姿もこれまたかわいい。毎日の癒しです。(美)

▼郷土芸能がキーワードで新たな方との出会いが広がり、様々な事を教えていただいています。被災地で二歩を踏み出した芸能もあれば、また声を出せないでいる芸能もある。支援格差の問題。失われた故郷の町名を何としても芸能の名前に残すのだと、住まいがバラバラになってしまった中で困難に立ち向かう福島の方々。まだまだこれから見知つていきたい、東北です。(倫)

▼今年六月十一日に、復興祈念の演能が大槌町で行われ、私は初めて大槌町を訪ねました。一観客の立場で、何も特別なことはできませんでしたが、それでもその土地に滞在し、空気に触れたことで、テレビを通して見て知っていただけでは違う、自分にとって特別な土地になりました。この度の奈奈子祭をきっかけに、大槌町を訪ねる方が増えていただければと思います。(康)